

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○基礎・基本の定着を図るために授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。 ○聞いて分かったことや考えたことを「相手意識」をもって伝える力を育てる。	○本時のめあてを板書するなど授業のユニバーサルデザイン化を図った。 ○子どもたちは、相手意識をもって活動するようになったが、話の内容が次の話題につながりにくく、全体の深まりまではいかなかった。そのため、教師は発問を工夫し、内容を関連させる話し合いができるような支援をした。	B	確かな学力	○教室環境の整備とともに、基礎・基本の定着を図るために、授業のユニバーサルデザイン化に継続して取り組む。 ○聞いて分かったことや考えたことを「相手意識」をもって伝える力を育てる。また、話の内容が次の話題につながっていくように関連付けて話す力を育てる。			確かな学力	c5		
豊かな心	○幼保小や縦割り班活動等の異学年交流を継続して実施し、「相手」を意識した活動を充実させていくことで、一人ひとりの自尊心を高めていく。 ○道徳の授業を年一回公開するなど、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。	○幼保小の交流活動や職員の連携も深まり、一人ひとりの成長を多くの視点で支援できた。相手意識の高まりもあり、充実した活動になった。○縦割りの異学年交流では、自尊心を高めることができた。自主性、リーダー性を高めるため、さらに年間計画を充実させていく。○道徳教科化に向け研修や授業公開を行った。	B	豊かな心	○幼保小や縦割り班活動等の異学年交流をさらに充実させし、「相手」を意識したり、自分から進んで関わったりすることで、一人ひとりの自尊心を高めていく。 ○道徳の授業を年一回公開し、子どもたちの実態に合った道徳の授業作りに取り組む。 ○道徳の新内容項目を取り入れたカリキュラムを実践しながら、よりよいものへ改訂していく。			豊かな心	c6		
健やかな体	○一校一実践として、年間2回開催する長縄集会に向けて各クラスで主体的に取り組む、体力の向上を図る。 ○給食後の歯磨きタイムを継続し、健康な体づくりの実践とともに意識を高める。	○年に2回、長縄週間を設定して目標に向かって各クラスで取り組み、体力の向上を図ることができた。チュンチュンあそびタイムを習慣化するためには、来年度再度呼びかけていく必要がある。○後期には歯磨き週間を設定し、重点的に取り組んだ。歯磨きタイムを継続することで、特に低学年で歯磨きの習慣が定着してきた。	B	健やかな体	○歯磨きタイムを継続し、歯磨きの習慣の定着を図る。 ○一校一実践として、週に一度のクラス遊びの時間を確保し、体力の向上を図る。また、運動委員会を中心に、長縄集会やマラソン週間を企画し、クラスで団結して目標達成のために取り組んだり、寒い時期にも積極的に体を動かしたりできるようにする。			健やかな体	c7		
児童生徒指導	○年間を通して挨拶運動に取り組む。○小雀スタンダードに基づいた一貫した指導をする。 ○問題を未然に防ぐために児相・区役所・警察などの関係機関と連携をとる。 ○教職員間で児童についての情報交換を密に行う。○児童理解研修を行う。 ○相談室を有効に活用する。	○小雀スタンダードに基づき、1年から6年まで共通した児童指導を行った。 ○全教職員で、児童についての情報交換や児童理解研修を行い、問題の未然防止に努めている。 ○保護者や児童への適切な相談や支援のため他機関との連携を図った。	B	児童生徒指導	○小雀スタンダードを基に児童が安心して生活し、学習に取り組むことができるようにし、一貫性のある指導や支援ができるようにする。 ○問題の未然防止の研修や関係機関との連携により、適切な支援ができるようにする。 ○個に寄り添った児童理解のため、学年研や児童理解研修の機会を活用して職員間で情報を共有する。			児童生徒指導	c1		
特別支援教育	○年度初めに児童の情報を全職員で共有し、一人ひとりに応じた支援を行っていく。 ○特別支援教育に関する研修を行った。視覚的情報を効果的に取り入れるなどの授業作りを工夫したりし、子どもたちが安心して学習に取り組めるようにする。 ○6年間のつながりを意識した支援を行い、関連機関とも連携を図っていく。	○特別支援教育に関しての研修を行い、授業のユニバーサルデザイン化に努め、わかる授業のための支援をした。 ○6年間のつながりを意識した計画のもとに、保護者や関連機関と連携を深め、一人ひとりに応じた支援を行った。子どもたちが安心して、意欲的に学習に向かえるように取り組んだ。	A	特別支援教育	○特別支援教育についての理解を深めるとともに児童の情報を職員間で共有し、適切な支援ができるようにする。 ○児童の困り感について理解を深め、授業のユニバーサルデザイン化を考え一人ひとりの教育的ニーズに応じた環境を整える。 ○関連機関と連携を図り、6年間を意識した支援を行う。			特別支援教育	c2		
地域連携	○学校便り、ホームページの充実を図る。 ○行事、学習の中での支援として地域の方や保護者のサポートを生かす。	○学校だよりやホームページ・学校メールの充実により教育活動の様子を積極的に発信することができた。 ○行事や学習の中で地域の方や保護者の方のサポートを生かすことができた。	A	地域連携	○学校だよりやホームページ、学校評価アンケート、懇談会などを活用し、教育活動の様子や育てたい子ども像などを積極的に発信する。 ○地域や保護者の方と連携し、児童が地域行事に進んで参加できるようにする。 ○学習ボランティアや清掃活動など、地域や保護者の方に理解と協力を得るためしっかり説明する。			地域連携	c3		
a18									c10		
a11									c11		
人材育成・組織運営	○メンター研修では、実践力の向上につながる研修を計画的に行う。 ○児童理解、授業力向上、危機管理等等、学校や児童の実情に合わせた研修を行う。また、OJTをはじめとした校内研修、メンター研修等に、関連する職員が効果的に関わり、組織全体で質を高めていくようにする。	○メンター研修では、年間計画にそって研修を行うことができた。2年・3年目研も、リーダーシップ開発研修に関連付けて企画・運営を行った。○通常の校内研修に加え、OJT研修など組織全体で関わり、教職員の授業力向上にむけ意欲的な研修が行われた。今後、研修の企画・運営面での充実を図るようにしたい。	B	人材育成・組織運営	○メンター研修では、年間計画を立て、計画的に研修を行う。2年・3年次研は、授業研究を通して授業力を高めていく。短時間で効果的な研修になるよう、持ち方を工夫する。全職員がサポートに入るようにする。 ○児童理解、学力向上、危機管理等の校内研修を行い、教職員の授業力をはじめとする資質・能力の向上にむけて研修を企画していく。			人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き	○授業のユニバーサルデザイン化に取り組み、①各教科における分かりやすい板書②学習のめあてを明確にし、子どもに見通しをもたせること③具体物を使った操作等の工夫 が効果的にできている。学力向上に向けて、子どもの「分かるようになりたい」という意欲を生かし、丁寧な指導、スモールステップの積み重ねを継続していく必要がある。○経験の浅い職員が育っている。校内での協力体制を生かし、チームとして学校を運営できるようにする。○今年度、大正中ブロックで身に付けさせたい力の共通理解を図った。来年度も活用していきたい。			ブロック内相互評価後の気付き				ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	○子どもたちが「学校大好き」で学校生活を楽しんでいる様子が伝わってくる。どのクラスも学習に集中して取り組んでいる。○学校全体の掲示物、各教室の掲示物もよく整備されていて、学校がよく整理整頓されている。○子どもたちの思いやりの気持ちも育っている。歯磨きタイムの充実を図るとさらによい。○挨拶運動を通して自分が体験することにより、挨拶へ意識が高まっている。今後も体験を多く重ねることが大切と感じる。○学校だより、ホームページ、メール配信などが充実していて、学校の様子がよく発信されている。			学校関係者評価				学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	○授業力向上に向けて校内での研修に取り組み、教師の指導力を伸ばしてきた。子どもたちが「学校大好き」と楽しく通える学校となってきている。さらに、学力向上に向けて継続して取り組んでいく必要がある。○学校だより、ホームページ等で学校の様子を発信することで、地域の皆様にもあたたかく支えていただいている。今後も継続して地域との連携を大切に、50周年行事に向けての活動を計画していく。○小雀スタンダードの見直し、挨拶運動の継続、歯磨きタイムの充実等、今年度の振り返りを生かして、さらに充実を図る必要がある。			学校経営中期取組目標振り返り				学校経営中期取組目標振り返り			